

インフルエンザ菌 b 型による髄膜炎を予防するワクチンが始まります。

2008.10.16

皆さん、細菌性髄膜炎という病気をご存知ですか？この病気は何らかの原因で細菌が脳を覆っている髄膜という部分に感染して起こる病気で、発熱や頭痛、嘔吐、乳児の場合は不機嫌などの症状の後、進行すると痙攣や意識がなくなるという強い症状をあらわします。その多くは6ヶ月から1歳くらいまでのお子さんで、細菌性髄膜炎に罹った5%のお子さんは亡くなり、20%のお子さんに麻痺や知能障害などといった後遺症が残るといわれています。日本では年間におよそ600人のお子さんがこの病気に罹り、苦しんでいるものと推測されています。

細菌性髄膜炎の原因で多いのはインフルエンザ菌 b 型、肺炎球菌、髄膜炎菌などで、今回世界中で使われているインフルエンザ菌 b 型に対するワクチンが日本でもようやく12月から使用できるようになります。(あくまでも現段階では予定です。)

インフルエンザ菌は皆さんがよく知っているインフルエンザワクチンでは防げません。紛らわしい名前ですが、インフルエンザワクチンで防げるのは**インフルエンザ・ウイルス**による症状で、**インフルエンザ菌 b 型**(細菌ですのでウイルスとは違います)には、専用のワクチンが必要なのです。間違えないように関係者は Hib (ヒブ) ワクチンと呼んでいます。

このワクチンは、3ヶ月から始める事が出来るワクチンで、三種混合ワクチンと同じ日に行うことが可能です。6ヶ月までに始める事が出来たお子さんは初回4週間毎に3回と概ね1年後に1回の計4回。7ヶ月以降1歳までに始めるお子さんは初回2回と概ね1年後に1回。1歳以降に始めるお子さんは1回接種することになっており、5歳までが対象とされています。ワクチンに伴う大きな副作用はありません。

このワクチンはまだ任意接種で行うワクチンとされておりますので、接種料金などは実施する各医療機関にお問い合わせください。あなたの大切なお子さんがワクチンで守ることの出来る病気で命を落としたり、後遺症に苦しんだりする姿を見たいとは誰も思いません。お金のかかるワクチンですが、ぜひ将来のある子どものために積極的にワクチンを接種してください。